

■ HRD FINE ART 展覧会開催のご案内 ■

## 伊賀 美和子 個展

# Narrative & Non-Narrative

**会場：** HRDファインアート（京都市上京区上御霊壱町494-1）  
**会期：** 2022年 4月14日（木）～ 6月4日（土）  
**時間：** 木曜日 11:00～15:00  
          金・土曜日 および 5月3日（火・祝）・4日（水・祝） 11:00～19:00  
**休廊：** 日～水曜日（事前のアポイントにより観覧可能）  
          ※上記のとおり、**5月3日（火・祝）と5月4日（水・祝）はオープンします**

### 【展覧会概要】

HRDファインアートでは、4月14日から6月4日までの会期で、美術作家・伊賀美和子の写真作品による個展「Narrative & Non-Narrative」を開催します。1999年に「キャノン写真新世紀」で優秀賞を受賞するなど、写真を中心とした作品が国内外で高い評価を受け、近年は絵画やドローイングの制作にも取り組んでいる伊賀の、京都初個展となります。また、本展は「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」のサテライトイベント「KG+ 2022」の参加展覧会です。

伊賀美和子は1966年東京生まれ。既製品の玩具や人形、手作りの小道具などを用いて、ドラマの一場面のような物語性を感じさせるシーンや、無意味で奇妙な光景などをジオラマのように構成・演出し、写真に収めます。子供時代に見た映画やテレビのチープな合成映像から影響を受けたそれらの作品は、「ステージド・フォトグラフィー」の一種にも、また「レディメイド」の変種としても位置付けられますが、ときに辛辣に、またときにユーモラスに、不思議な現実感をまとって観る者に迫ります。

本展では、近年特に取り組んでいる、小説などの文学作品にインスピレーションを受け、その一場面を再現したシリーズに加え、ナンセンスなおもちゃ遊びに徹した旧作（《弄ばれた玩具》シリーズ）も併せて展示することにより、「演じる人形」と「演じない人形」の対比を通じてリアリティとフィクションの複雑な関係性を提示します。

私たちの人生は「Narrative（物語的）」なのか、「Non-Narrative（非物語的）」なのか？ パンデミックや戦争など、にわかには信じがたい、非現実的とも言えるような出来事が続く現在の社会状況ともリンクしながら、生を取り巻く様々な思考が交錯する伊賀美和子の作品世界をぜひお楽しみください。

## 【アーティストからのメッセージ】

紙芝居のようにショートストーリーを持つ組写真から始めた写真作品から、最近は物語のクライマックスシーンを1枚の写真の中で表現する写真に変わってきました。

人は、混沌とした社会や私生活の中で「抑圧」と「解放」、「隠すこと」と「見えること」、「期待」と「絶望」など二極間を絶妙なバランスを取りながら漂っている一方で、ともすれば「極端」という流れに身を委ねることもあります。「極端」に「ドラマ」があり、そのドラマの中で、満足しない自分の役でさえ陶醉して演じる姿は悲しくも滑稽です。当たり前と捉えている日常の至るところに「極端への起爆剤」があり、昨今では人形と同じく何かに操られているような人間の脆さを感じながら制作をしています。

伊賀美和子

【展示作品】



復讐遊戯（『禁色』より）  
Cプリント 28.5×19cm 2020年



谷崎潤一郎ヒロイン10選 - ナオミ（『痴人の愛』より）  
Cプリント 20×28.5cm 2015年



檸檬

Cプリント 28.5×19cm 2022年



金閣寺

Cプリント 27.5×41.1cm 2022年

## 【作家略歴】

伊賀 美和子

Miwako IGA

1966 東京都生まれ

現在、東京在住

### 主な個展

- 2000 「A STORM IN THE LIFE 一台風一家」 セゾンアートプログラムギャラリー (東京)
- 2003 「テンペスト・イン・ティーポット」 小出由紀子事務所 (東京)
- 2007 「Madame Cucumber」 ベイスギャラリー (東京)  
「Madame Cucumber」 イヒョン・ソウル・ギャラリー (ソウル)
- 2010 「悲しき玩具 ~ The Open Secret」 ベイスギャラリー (東京)
- 2015 「THAT'S NOT ENOUGH.」 ベイスギャラリー (東京)
- 2019 「Metropolitan Syndrome」 Digger Gallery (東京)

### 主なグループ展

- 1999-2000 「写真新世紀展」 P3 (東京) / 京都造形芸術大学ギャラリーRAKU (京都)
- 2000 「フィリップモリスアートアワード」 恵比寿ガーデンホール (東京)
- 2003 「Futuring Power」 東京都写真美術館 (東京) / せんだいメディアテーク (仙台) /  
京都造形芸術大学ギャラリーRAKU (京都)  
「女の遊戯」 z platz (福岡)
- 2004 「プリティー？」 小出由紀子事務所 (東京)
- 2012 「PHotoEspaña 2012」 マドリッド (スペイン)  
「Asia Serendipity」 マラガ/バリアドリッド (スペイン)
- 2013 「Summer show」 Poetic scape (東京)
- 2018 「女系家族 - The Family of Woman」 Digger Gallery (東京)  
「ザムザ 2018 ~虫によせて」 HRD ファインアート (京都)
- 2019 「女系家族 パート2」 世田谷美術館区民ギャラリー (東京)  
「百人一首って」 人形町ヴィジョンズ (東京)
- 2021 「描きたい ~ 伊賀美和子とあいつの作家による人物画展」 帯広ポプケギャラリー  
白かば通り美術館 (北海道)

### 受賞

- 1999 「キャノン写真新世紀」 優秀賞

### 作品集

『Madame Cucumber』 (2007年 グラムブックス)

### ウェブサイト

<https://madamecucumber.art/>

## 【感染対策について】

HRD ファインアートでは、展示プログラムの再開にあたり、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大防止対応として、以下の措置を導入・実施いたします。

### ① オープニングレセプションの中止

従来、展覧会初日にアーティストを囲んでオープニングレセプションを開催してきましたが、当面の間これをすべて中止します。

### ② 検温・不織布マスク着用・手指消毒の徹底

ご来場の方は、事前(当日)に検温をお願いいたします(会場で非接触式体温計による検温をお願いする場合があります)。37.5℃以上の熱のある方や咳等の呼吸器症状のある方はご来場をお断りします。また、来場時は不織布マスクまたは同等以上の感染防止性能を持つマスクの着用をお願いします(ウレタンマスク、布マスク、ガーゼマスクでご来場の方には未使用の不織布マスクをお渡ししますので、そちらを着用してください)。健康上の理由等によりマスクを着用することができない場合は、事前にお申し出ください。また、ギャラリー入口に設置する手指消毒用のアルコールでの手指消毒をお願いします。

### ③ 来場人数制限の実施

ギャラリー内の混雑を避けるため、来場人数の制限を設け、ギャラリーへの入場をお待ちいただく場合があります。

### ④ 臨時休業・完全アポイント制への移行の可能性

新型コロナウイルスの感染拡大を見極め、状況に応じてギャラリーを臨時に休業、または事前アポイントによる完全予約制とさせていただきます可能性もあります。こうした場合は、ギャラリーのウェブサイト [www.hrdfineart.com](http://www.hrdfineart.com) や SNS のチャンネルを通じて、なるべく早い段階で告知を行います。

\*\*\*

お問い合わせ：HRD FINE ART (エイチアールディー・ファインアート)

住所：〒602-0896 京都市上京区上御霊壱町494-1  
 電話：090-9015-6087 (担当：原田)  
 ウェブ：<http://www.hrdfineart.com>  
 Eメール [info@hrdfineart.com](mailto:info@hrdfineart.com)

